

梅之木通信

【縄文住居をつくる会】

第25号 2021. 6. 6 発行

そろそろ4号棟の骨組みが完成です

前号の梅の木通信発行から気が付かないうちに日数が経ってしまいました。

この間に、新型コロナウイルスのワクチン接種も始まり、メンバーの中にはすでに2回の接種が終了した人も出始めています。皆さんもワクチン接種を済ませ自粛・自粛の生活から、以前の生活活動に戻り始めた頃でしょうか。梅の木通信の発行が滞っていましたが、決してコロナ禍のせいばかりではありません。

ある程度予想はしていましたが今回の7本柱の4号棟は想定以上に材料が必要で、垂木や木舞にする木材がたびたび不足します。その度ごとに、樹木の切り出し部隊と木舞の設置部隊との二班に分かれて作業を分担して進めます。7本柱住居の屋根を構成する木舞の本数が相対的に多いことも確かですが、それ以上に前回の3号棟を建設した経験から、木舞にしっかりと材料を選別して使ったり、木舞を設置する間隔も杉板の長さを考慮して狭めたりと、やはり二棟目となると多くの経験が生かされます。一棟目の時には次にどのような作業に結びつくのか分からず、五里霧中という所もありましたが、今回は次の工程が分かっているので先の工程での苦労が予想できます。また見栄えも良くするために幾度も手直しが発生して時間が掛かっているのかもしれませんが。これもふるさと倶楽部メンバー達のこだわりの結果でしょうか。

❖ 玄関部分屋根の梁を設置 (4/10)

横から見ると入口部分から室内に至るまでのアプローチ部分の長いことが良く分かります。

この4号棟は『海外からのお客様向けの宿泊施設にする』という話もあり、外国人向けに今までの入り口のように頭をぶつけそうな低さではなく、少し余裕をもって出入りし易い高さにしました。縄文人の背は現代人ほど高くなかったようですが、今回の住居は展示用というよりも実用重視というので！



❖ ほぼ木舞も組みあがりました (6/5)

天井部分まで木舞がぎっしりと組みあがりました。前回は、木舞の上に乗るとペキペキ折れてしまうような細い枝や、腐りかけた枝も使われていましたが、見た目にも、しっかりと木が使われているのが分かります。其々の先端も飛び出していると、杉板を止める時に苦勞するため、垂木からはみ出さないよう調整し、切断部もなたで処理して加工跡を目立たなくしました。

◆ やっと天井部分まで到達

天井に取り付ける天蓋の枠組みができ、やっと終了か！と誰もが思うのですが、今回ばかりは『きれいに仕上げたい！』という思いが勝るのか、熊さんばかりかメンバー一同も気になり始めるといろいろなところが気になってしかたがありません。

また、『微調整・・・』と言いながら、いたるところで手直しが始まります。



◆ なんだか入口屋根の傾斜が気になる？

だれが言うでもなく、気になる部分が見つかる『雨水が溜まらないか？』『どこへ水が流れる？』と検討が始まります。写真で見ても、右に少し下がっているのが分かりますが、材料の木材に本来の曲りがあるのである程度は仕方がないところです。

検討の結果、玄関からの梁材の紐を一旦外して、別の材木に入替ることに。こだわりの強いメンバー達なので妥協はありません。

◆ なかなか結び方が揃いません

垂木と木舞を結びつけるのに、本来は左下のような結び方をして、最期に首締めをして縦横二本の木をしっかりと結びつけます。しかし、よく見直してみると仮結びのつもりだったのか、首締めが不完全なところや、二本の紐で結びつけられているところがところどころに見つかります。庭師が本職？の熊さんにレクチャーをうけたはずなのですが・・・



4号棟の全体の枠組みも『完成しそうで、また手直し・・・』という状態の繰り返しでしたが、だんだん到着点が見えて来たようです。と言っても、まだまだ玄関屋根の手直しや結び方の手直しに加えて、窓位置を決めていく作業もあります。このところ週末になると雨の日も多く、作業の進捗にも影響が現れています。さらにこの先梅雨の時期ともなるとますます作業が思い通りに運ばないことも予想されます。6月の作業参加予定に申し込みをしていなくても、当日参加、おおいに歓迎です。コロナで外出を控えていたみなさん、二地域で参加を遠慮していたみなさん、どんどん遊びに来てください！！